

| | | | | | | |
|-------------------|--|---|--------|---------------|-----|---------------|
| 授 業 科目名 | 【Gカリキュラム】 専門演習 ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 専門演習（外書講読）Ⅰ | 選択履修 | 開講年次 | 【G】3 【EF】3 | 単位数 | 【G】2 【EF】2 |
| 科目区分 | 基本科目／【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | 【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | | | |
| サブタイトル | 英語に親しみ精読する | 担当者 | 小野上 真也 | | | |
| 授業概要 | <p>【概要】 法学・法律学文献や英字新聞記事等を読み、英語に親しむと共に、そこに書かれている内容を精確に把握するという授業展開を予定しています。下記「授業内容」で掲げるように、配布資料を受講者全員で輪読し、担当者による解説をも踏まえ、理解を深めていくこととします。</p> <p>【到達目標】 文献内容を精確に読解できるようにすることが到達目標です。</p> | | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | | | | |
| 教科書・ 参考書 | <p>【教科書】 特定ものを指定しません。こちらから適宜資料を配付します。</p> <p>【参考書】 英和辞典（冊子または電子）</p> | | | | | |
| 授業回数 | 授業内容 | | | | | |
| 授業内容 | <p>1. 演習の進め方 毎回、受講生の皆さんに事前配布資料を翻訳（予習）のうえ本演習に出席していただき、授業において全員で輪読します。その際には、精確な邦訳・内容理解につとめていただきます。また、必要に応じて、担当者から、背景知識や英語文法・表現に関する解説も行います。</p> <p>2. テキスト 最終的には、H.L.A Hart, “Law, Liberty and Morality”（初出1963年）を読むこととします。 （これはHartが「パターンリズム」を主張した有名な文献です。その箇所を中心に講読しますが、理解をより深めるため、関連文献として、John Stuart Mill〔他者侵害原理〕やPatrick Devlin〔刑法の役割を道徳の強制と考えた〕という人達の著作（英文）も紹介したいと考えています。） 以上のほか、法学・（とくに）刑事法に関する英語文献や、英字新聞記事等を適宜素材として配付し、輪読・内容理解を進めていきます。</p> <p>3. 進度 文献を丁寧かつ精確に読みますので、ゆっくりと読み進めていきます。</p> | | | | | |
| 予習 復習 内容 | 事前配布の資料英文を翻訳（予習）してきた上で全員で輪読しますので、予習をしないとう授業が成り立ちません。注意して下さい。授業では、担当者から諸々の解説をします。受講生には、解説を踏まえその文献を読み直し、より精確な内容把握につとめるという復習を希望します。 | | | | | |
| 評価方法 | 翻訳課題の達成（50%）+内容の理解（50%）。授業参加が、評価上、当然の前提です。ここでの「参加」とは、単に「出席」することだけでは足りず、輪読・議論に積極的に「参加」することを意味します。 | | | | | |
| 評価基準 | 上記授業内容につき、十分に課題を達成し、積極的に授業に参加して、文献内容を理解した者には「A」、また、課題達成・授業参加・内容理解度の程度によって「B」ないし「C」とします。その程度が著しく低い場合には、程度に応じて「D」または「E」とします。 | | | | | |
| その他 | <p>特になし。</p> <p>※G 刈：法【-】 刈°【-】 情【-】 / EF 刈：法【選択必修（γ）】 刈°【選択必修（γ）】 経【選択必修（γ）】</p> | | | | | |